

文久四年一月廿五日より文久四年一月廿七日まで

P8311076 right

廿五日卯 晴

近庄より花糖一管、匠鉄より小菊一束(半)喜太三より白フランケット一枚残贈し来る、駕棒頭より駕棒を足

す一方の賀銀を可遣、例の□、出 殿、河内守殿御直 御来印支配向外共三通御求御渡 御証文同断六通川上(謙之助)より受取、何れも預り帰る、富沢(大)手伝にくる、(札差)板倉屋より小菊五束

同番頭より烟草箱入、細谷より鶏卵管残贈し来る旨、小川(達)より一扁の文章を残し贈り、且小出和州(大和)への一書届け方托し来る、藤山(馬)来る、一杯を勧む、水野(痴)より平謙へ届物一書

托し来り、且魚糕二管を残し贈せらる、提燈屋より花糖一管を足せり

廿六日辰 晴 験温計

五郎生、山本(長)、藤山父子、寺山来り寺山よりは懷中□□油、時□蛤二□、伊豆倉より花糖一管を贈る、五つ半時発途、下谷山下五条天神在場にて、須崎(金)、同(常)、同正覚、宿岡

P8311076 left

(彦)出迎に余正へ二方、伯母へ一方、常へ二方を投し彦へ座棧袴地を投じ、且柳亭より兼約の写真画を渡す、霜降豆一小管を贈らる、五郎生藤山父子、須崎(常)宿岡(彦)

(千住休)寺山(千住迄)送り来る、喜左三、鉄三郎、孫太郎 並和田(重)、山本(直)、出張し尋問せらる、前三人よりは

桜糕一小籠、和田(重)よりは打菓子一折、塩辛一器を贈らる、其他町人共送来れり何れも留、別

杯を勧む午下一同袂を分ち、瀧さき(升之塚)にて、小休草加宿泊り、千住駅にて太左衛門、初以下

(艸加泊)来り面す、草加宿にては清作老人来り面す

廿七日巳 陰午下雨意 験温計朝四十度(撰氏 4.4 度)、昼四十七度(撰氏 8.3 度)

(粕壁休み)朝第六時半過出立越ヶ谷、間久利にて小休、粕壁午飯、正午出立、杉戸小休、午後第三時過

(幸手泊)幸手着○別筵、弟戒奏功母戒寥別筵心緒□般に多言何 盡(説)多情得(尽)止在安寧一語間○、石川喜太、西村(鉄三)、生島(孫三)訪千住駅

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解説未了の文字です。私の実力ではすぐ解説できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。